

赤井川村地域公共交通活性化協議会

令和元年10月28日設置

資料3

赤井川村

概要

当村は、その四方を山々に囲まれた「カルデラ」状の地形をなしており、近隣市町村とは、山を越えての隣接となる地理的特性を持っている。気象条件は盆地特有の内陸型気候で、冬は積雪が多く北海道でも有数の豪雪地帯である。主産業は、農業と観光業で、農産物の品目は多岐にわたり、観光業では、キロロリゾートを中心として、ウィンタースポーツを始め、グリーンシーズンのアウトドアスポーツなどがあり、観光客も増加している。

人口は、平成の時代では平成6年1,543人をピークに減少しつづけ、平成26年に1,137人まで減少をしたが、外国人の増加により、現在は1,273人(R元.12月末現在)と増加傾向にある。また、外国人が現在173人居住しており、全体の13.5%を占めている特異な地域である。

高齢化率は、H31.1.1現在当村は、33.5%であり北海道平均31.1%と比較して2.4%高く、全国平均28.1%と比較すると5.4%高くなっている。過疎地域である他の町村と比較すると、リゾートがあることから高齢化率は低くなっている。

○地域公共交通の現況

- ・北海道中央バス(株)(1路線)
- ・赤井川村公共交通バス(市町村有償運送 1路線)
- ・スクールバス(1路線)
- ・村内循環温泉送迎バス(第2 第4木曜日 1路線)

○地域公共交通の課題

- ・村内唯一の地域間公共交通の維持・確保
- ・地域公共交通の利用促進
- ・交通空白地の縮小

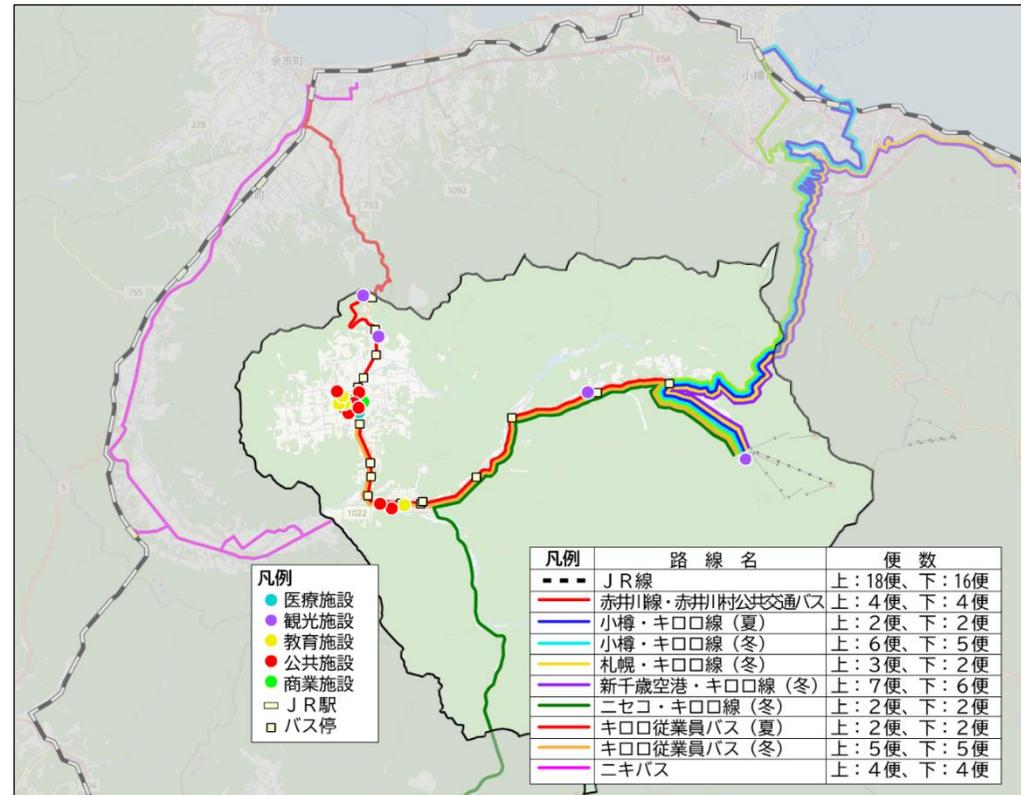
○調査の主な内容

- ・現況交通実態調査 ・村民ニーズ調査 ・バス乗降調査
- ・地域公共交通計画素案とりまとめ
- ・実証運行立案 ・協議会開催

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 6月3日 第1回協議会を開催
- ・市町村運営有償運送(交通空白地)の対象に余市町民を含めることについて
 - ・赤井川村地域公共交通活性化協議会財務規程制定、監事選任、予算について
- 9月14日 第2回協議会を開催
- ・赤井川村地域公共交通計画策定支援業務について
 - ・赤井川村地域公共交通計画策定のためのアンケート調査について
 - ・貨客混載実験について
- 12月3日 第3回協議会を開催
- ・赤井川村地域公共交通計画策定支援業務の中間報告について
 - ・赤井川村生活支援体制整備事業協議体からの情報提供について

公共交通の概要



赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

・現況交通実態調査

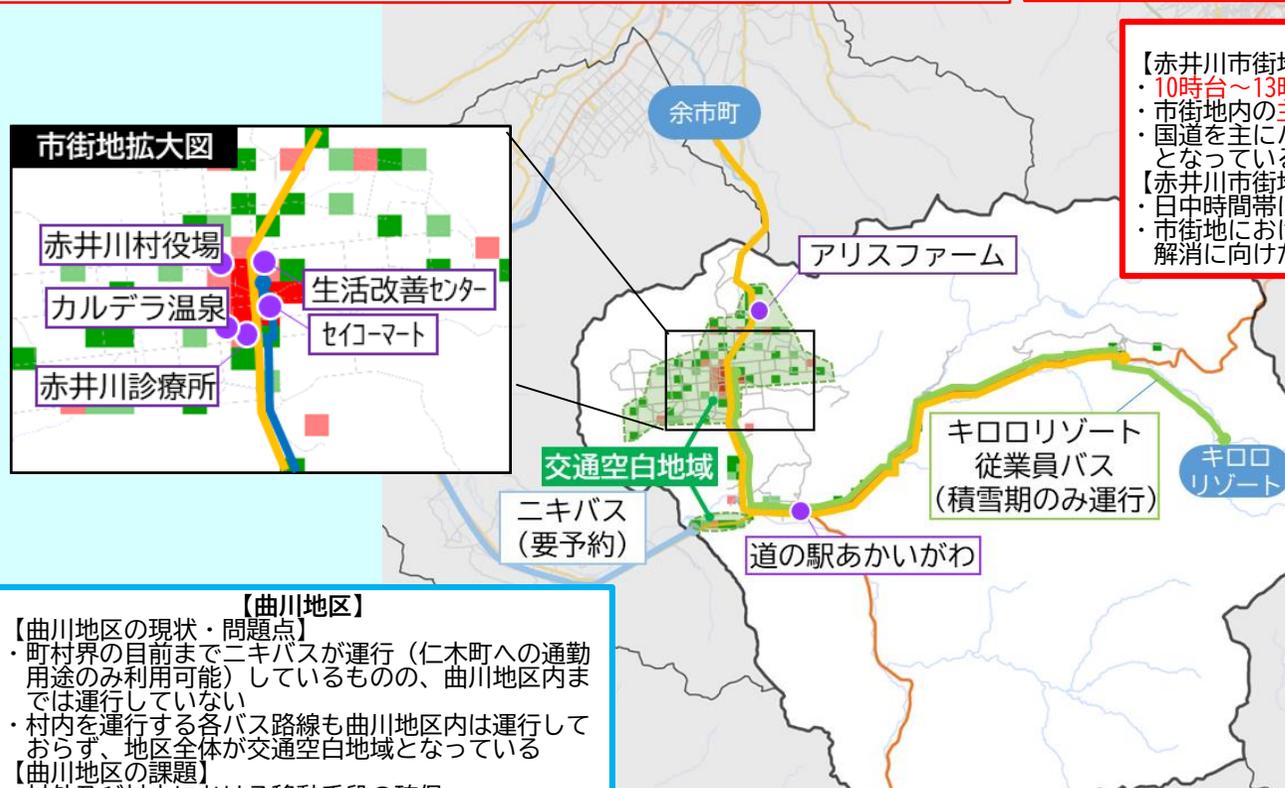
公共交通事業者(北海道中央バス(株)、(有)赤井川ハイヤー)、庁内福祉部局、キロロリゾートにヒアリング

【赤井川村の現状・問題点】

- ・赤井川村唯一の民間バス路線である赤井川線は、国道を主で運行していることに加え、運行時間帯が限られていることから、余市町までの村外移動及び村内移動における利便性は低くなっている
- ・村内唯一のハイヤー事業者である(有)赤井川ハイヤーは、村内の移動支援策の多くを担っており、運転手不足が深刻化している状況下で、現状の公共交通体制を維持することが困難となっている可能性がある
- ・赤井川線は利用者数の低迷(約2人/便)や運転手不足等により、今後、存続が困難になることも想定される

【赤井川村の課題】

- ・村外移動及び村内移動における利便性の向上
- ・住民ニーズに即した村内公共交通の拡充に向けた運行体制の増強
- ・北しりべし定住自立圏の各市町村と連携した公共交通の維持及び確保に向けた取組の検討
- ・赤井川線の廃止問題が浮上する前のリダンダンシーとして、現段階から赤井川線の代替交通手段の検討



【赤井川市街地】

【赤井川市街地の現状・問題点】

- ・10時台～13時台の時間帯に余市町行きの便が運行していない
- ・市街地内の主要施設間を結ぶ交通が整備されていない
- ・国道を主にバス路線が運行しており、国道から離れた地域が交通空白地域となっている

【赤井川市街地の課題】

- ・日中時間帯における村外及び市街地内移動手段の確保
- ・市街地における村民ニーズを踏まえた、国道から離れた交通空白地域の解消に向けた交通手段の検討

【赤井川線沿線地区】

【赤井川線沿線地区の現状・問題点】

- ・10時台～13時台の時間帯に余市町及び市街地行きの便が運行していない
- ・バス停間の距離が離れている

【赤井川線沿線地区の課題】

- ・日中時間帯における村外及び村内移動手段の確保
- ・バス停から離れた位置に居住する村民の移動手段の確保

【キロロリゾート利用観光客】

【観光利用の現状・問題点】

- ・小樽市からの直行便が運行している一方で、宿泊施設から村内の観光施設まで移動できる公共交通がない

【観光利用の課題】

- ・村内の観光促進に向けた交通体系の構築が必要(道の駅や村内観光施設へのアクセス)

【曲川地区】

【曲川地区の現状・問題点】

- ・町村界の目前まで二キバスが運行(仁木町への通勤用途のみ利用可能)しているものの、曲川地区内までは運行していない
- ・村内を運行する各バス路線も曲川地区内は運行しておらず、地区全体が交通空白地域となっている

【曲川地区の課題】

- ・村外及び村内における移動手段の確保

赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

◆交通課題

◎村内移動における利便性の向上

- ・村内移動における交通空白地域の存在
- ・バス停までの移動が困難な方の移動支援の不足
- ・観光利用も可能な村内施設を結ぶ移動支援の不足

◎村外移動における利便性の向上

- ・通学時間帯や日中時間帯における利便性が低い
- ・他公共交通機関との接続利便性が低い

◎地域交通視線を活用した公共交通体系の構築

- ・充実した村内公共交通体系の構築に向けた運行体制の増強
- ・近隣市町村と連携した取組の実施検討
- ・新たに構築される公共交通体系の周知に向けた取組の実施検討

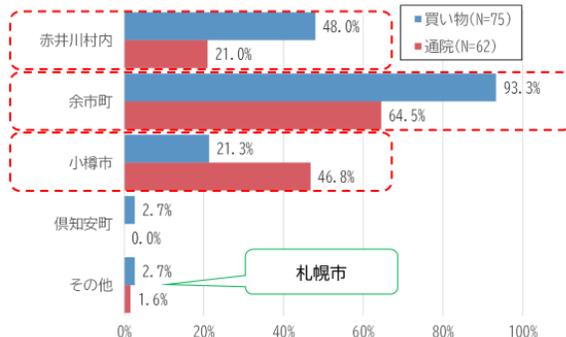
◆意見交換会の主な意見

- ・JRとの接続状況が悪いため、通学場所によっては、毎朝余市駅までの送迎が必要
- ・公共交通の利便性が低いため、志望校に行けないことがないようにしてほしい
- ・余市駅での他バス路線への乗継における待ち時間が長い
- ・朝・夕の通学時間帯を確保の上、8～15時台に利用できる公共交通があると良い
- ・午前中に余市町を往復できる運行が望ましい
- ・余市町や小樽市へのアクセス利便性が向上すれば、定住や移住促進に繋がる
- ・実証運行を行いながら、利用者等の意見を聴取し、改善しながら実施してほしい

■各種調査結果 P12

◆買い物先や通院先の市町村

・回答者の多くの方にとって、余市町が生活圏の一つとして成立。



アンケート調査の結果等より、買い物及び通院先が余市町であることがわかり、今後余市町へアクセス交通の利便性向上が課題

赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針

公共交通の課題に
対応した方針案

地域の資源を総動員した、村民主導で考える利便性の高い公共交通網を構築

赤井川村全体の
公共交通の方向性（案）

I. 余市町へのアクセス交通の利便性向上
II. 既存交通を活用した村内交通の充実

III. 道の駅を拠点として観光利用も含めた交通体系の構築
IV. 村内公共交通網の再編に伴う利用促進策の検討

①余市町及び小樽市へのアクセス交通の利便性向上

- ・余市町へのアクセス交通の維持
- ・小樽市とのアクセスを考慮した交通体系の検討
- ・通学時間帯や生活移動時間帯における移動手段の確保
- ・JRや高速いわない号等との接続性を確保

②既存交通資源を活用した村内交通の充実

- ・自宅からバス路線沿線までのラストワンマイル交通を確保
⇒市街地：社会福祉協議会との連携
温泉送迎バス等との一本化
- ⇒曲 川：ニキバスの活用
- ・市街地等における沿線までの移動の充実
- ・村内主要施設への立ち寄れる交通の導入
- ・住民ニーズに即した公共交通サービスの提供

③観光利用も含めた交通体系の構築

- ・観光ニーズにも対応した公共交通ネットワークの構築
- ・キロロリゾート、道の駅あかいがわ等との連携

④村内公共交通の再編に伴う利用促進策の実施

- ・新しい交通の導入に向けた実証運行の実施等、利用方法や運行内容等の村民への周知に向けた利用促進策を実施



赤井川村地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄